



株式会社オリジン

# 株式会社オリジン 2023年3月期第2四半期 決算説明

2022年11月  
証券コード 6513

# 目次

1. 社長挨拶
2. 第2四半期決算及び通期業績予想
3. 事業の成長エンジン 挑戦の進捗

# 2023年3月期 第2四半期連結決算説明資料



株式会社オリジン

証券コード: 6513

## 1. 社長挨拶

- 上期の業績と下期（通期）の予想
- 上期業績トピックスと下期業績へのステップ
- 厳しさ続く事業環境
- 対応課題
- 人的資本戦略

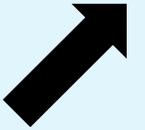


代表取締役社長  
妹尾一宏

# 上期の業績と下期（通期）の予想

1

コンポーネント事業及びメカトロニクス事業の売上高が好調に推移。**通期売上高**は前回予想を上回ると予想（➡上方修正）



2

半導体を中心とした部品調達難や原材料高に伴う原価率の上昇のため、**営業利益**については予想を据え置き（➡変更せず）



3

為替レートが想定より更に円安で推移、為替差益の発生を見込む。**経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益**も予想を上回る見込み（➡上方修正）



# 上期業績トピックスと下期業績へのステップ

## 中期経営計画の進捗

実績：新規事業創出に向けた  
スタートアップ企業との連携

ICOMA社との連携  
「たためるバイク」  
(第27回 機械要素技術展)



## カーボンニュートラル に向けた取り組み

実績：CO<sub>2</sub>削減に向けた技術  
開発に注力し製品化

エレクトロニクス事業：EV連携

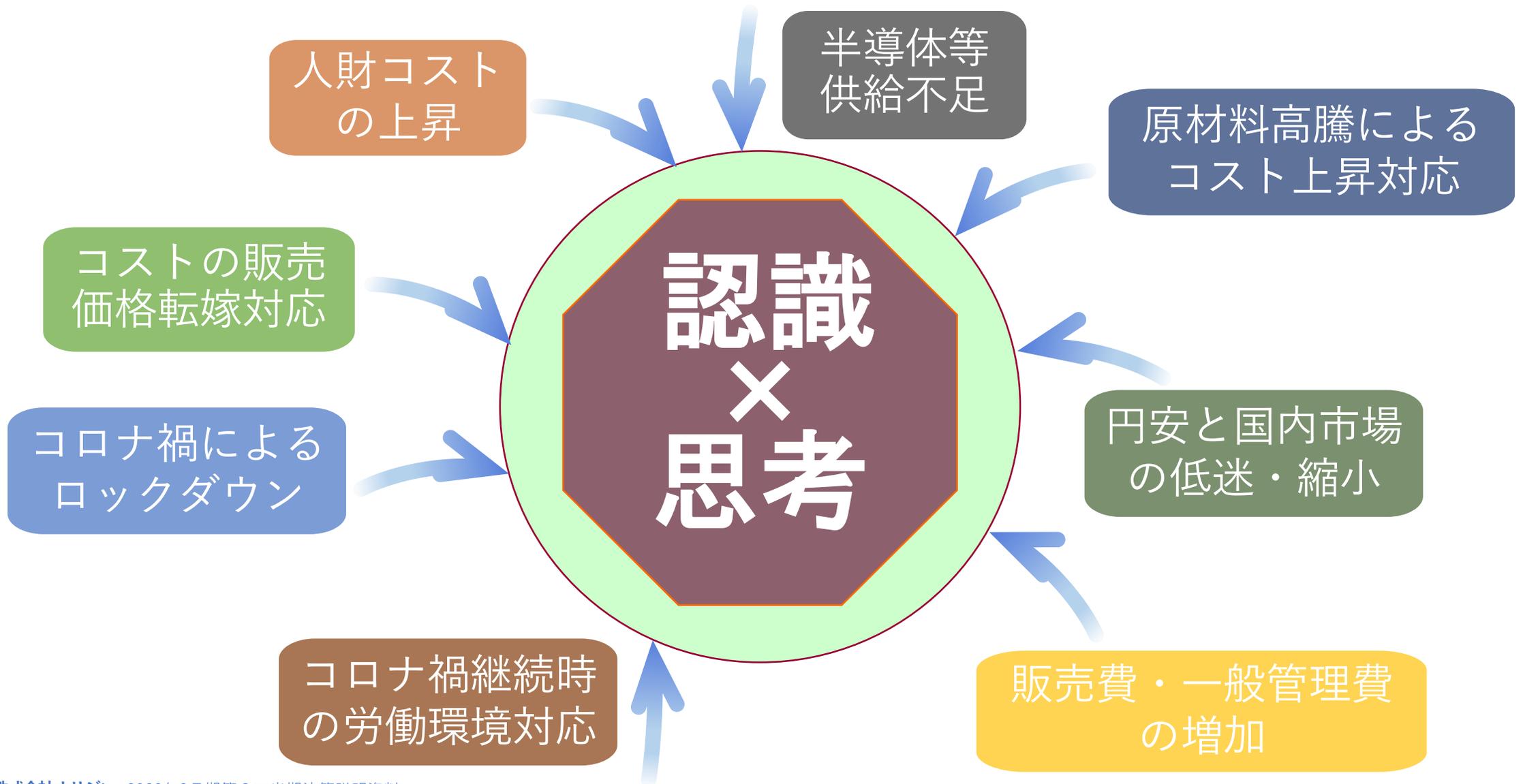
◎CHAdemo 認証取得

ケミトロニクス事業：速硬化塗料

◎乾燥時間と温度をセーブ

# 厳しさ続く事業環境

有事対応ともいえる環境変化→自己変革の時代へ



# 対応課題

## 対応すべき課題

》 総合事業力の強化による収益体質の構築

》 新たな時代を見据えた新事業構築  
(事業の寿命と自己変革)

》 マンパワーからAI利用への企業構造改革

》 先行き不透明な環境下の戦略経営立案と運営  
(景気悪化・ウクライナ侵攻・米中欧の動向など)

》 株主還元（現在は配当・自社株買い）の充実等による株価向上による企業価値向上へ

# 人的資本戦略

2020年からCHROを新設  
経営陣がCHROとして人財戦略の策定と実行、改革を促進

「リスクマネジメント」の観点から  
将来的な「人財不足」を懸念し対応

「長期的な業績や競争力」の観点から

「企業価値向上」

「技術継承」

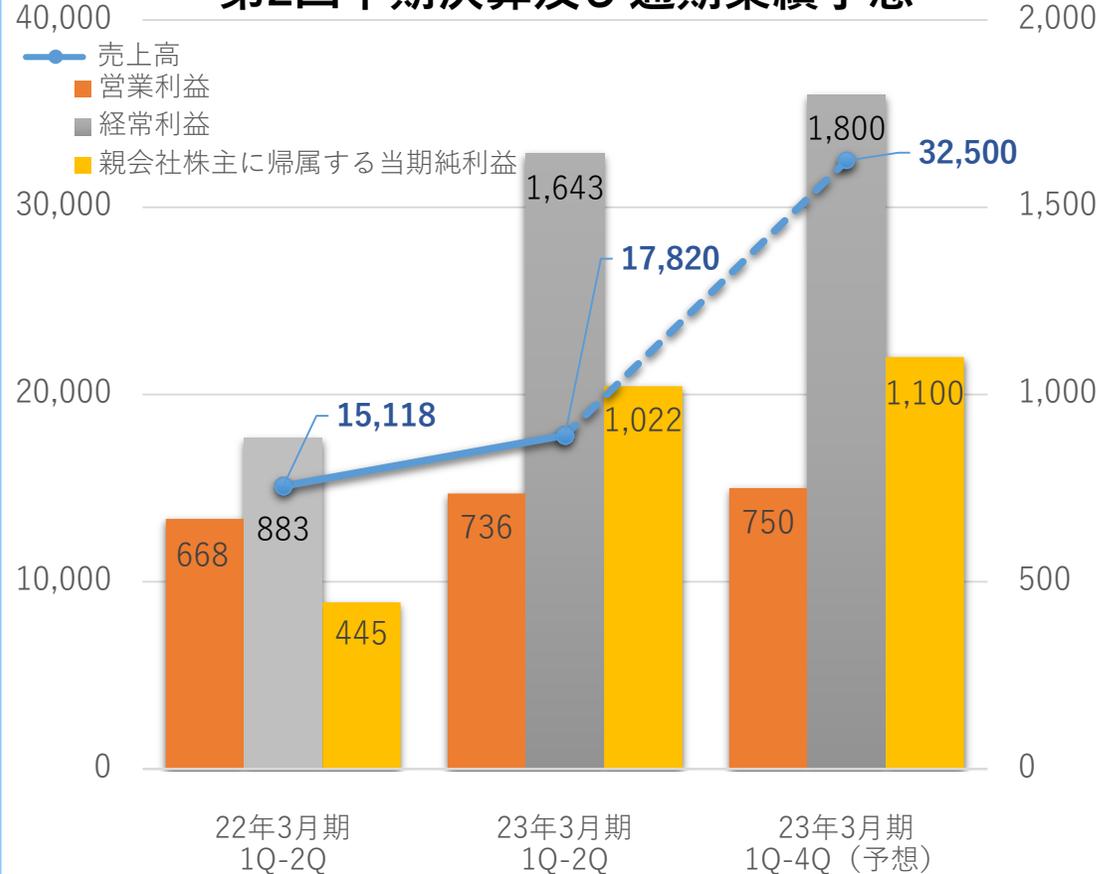
技術はデジタル化の流れが強いが、人を含めたアナログも重要であり、技術開発の根幹は「人」である。オリジンはデジタルとアナログの両輪でニッチ&トップをめざす。

## 2. 第2四半期決算及び通期業績予想

# 第2四半期決算及び通期業績予想

メカトロニクス事業が売上高に、コンポーネント事業も営業利益に寄与し、円安による為替差益7億2千6百万円を計上した結果、前年同期比増収増益  
通期業績予想は、第2四半期決算発表時に上方修正するも、3Q-4Qは原材料価格の高騰、メカトロニクス事業の減収減益等により利益面は厳しい見通し

(単位：百万円) 第2四半期決算及び通期業績予想 (単位：百万円)



## 第2四半期決算ハイライト

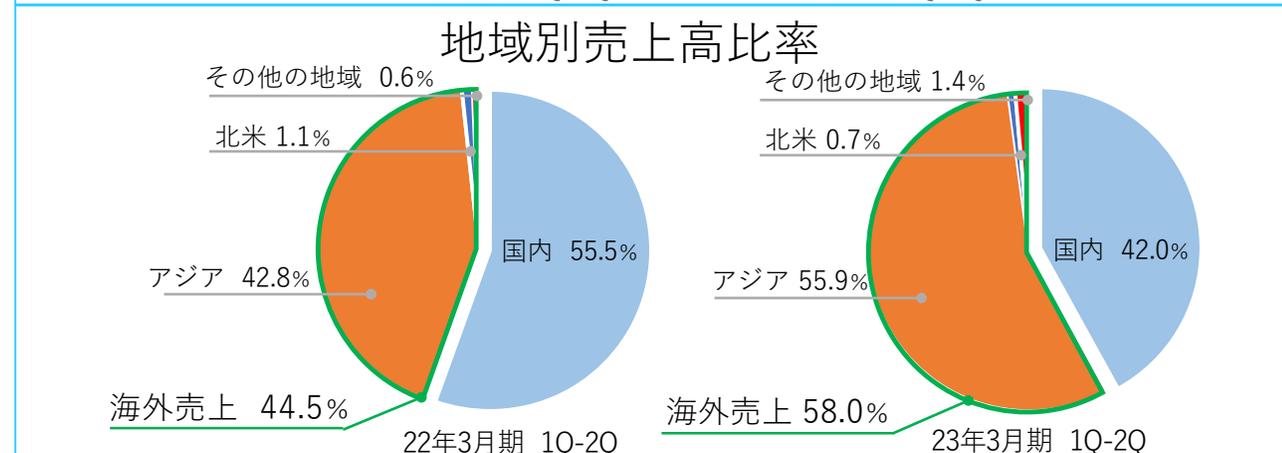
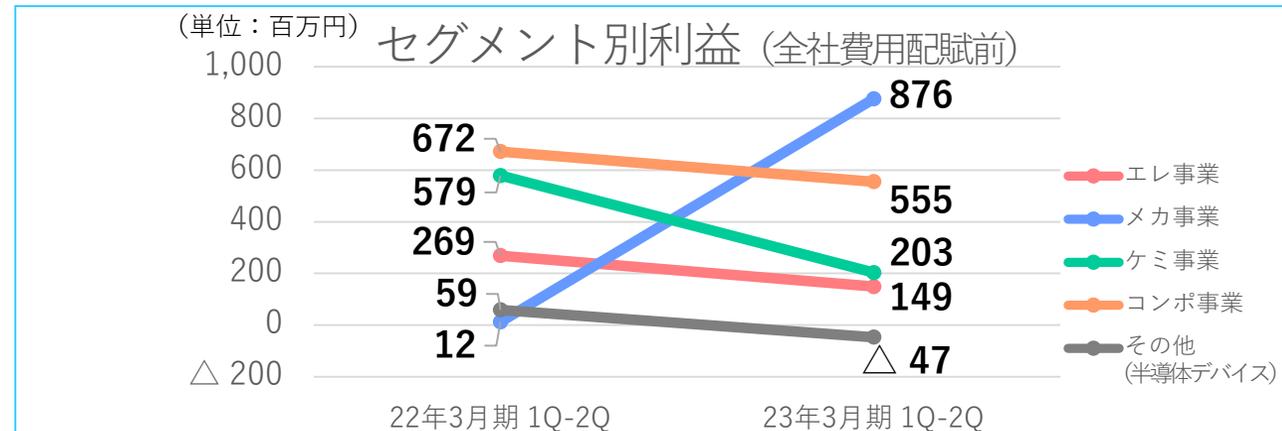
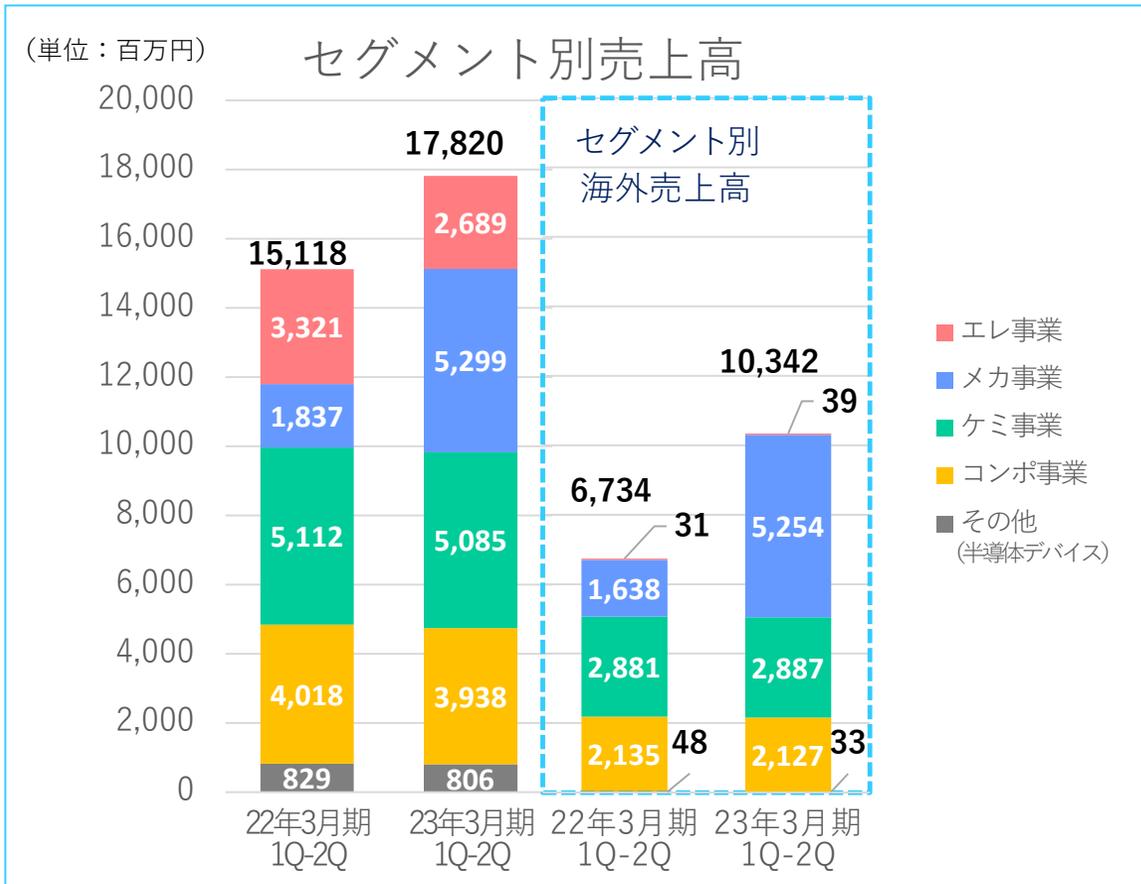
(単位：百万円)

	22年3月期 1Q-2Q	23年3月期 1Q-2Q	前年同期 増減率
売上高	15,118	17,820	17.9%
営業利益	668	736	10.2%
経常利益	883	1,643	86.1%
親会社株主に 帰属する四半期純利益	445	1,022	129.7%
1株当たり四半期純利益	71.76	167.27	

(単位：円)

# セグメント別状況

- エレクトロニクス事業** : 医療用電源や半導体製造装置用電源の堅調な受注が継続するも、部品調達難を主因とした生産遅延により、減収減益
- メカトロニクス事業** : 前期受注案件の光学レンズ貼合装置(OLB : Optical Lens Bonder)が大きく寄与し、増収増益
- ケミトロニクス事業** : 半導体調達難に伴う自動車メーカーの減産が国内で大きく響き、減収減益
- コンポーネント事業** : 部材調達難や中国ロックダウンの影響により、減収減益となるも好調を維持
- その他 (半導体デバイス)** : 自動車関係の減少が影響し、減収減益



# キャッシュ・フロー、設備投資、減価償却費、研究開発費

営業活動によるCF : 売上債権の増加、仕入債務の減少

投資活動によるCF : 定期預金の純増加額、有形固定資産の取得による支出

財務活動によるCF : 自己株式の取得による支出、長期借入金の返済による支出

23年3月期1Q-2Qの主な設備投資 : コンポーネント事業の生産設備の更新

売上高研究開発費比率 : 売上高増加に伴い0.4%減少

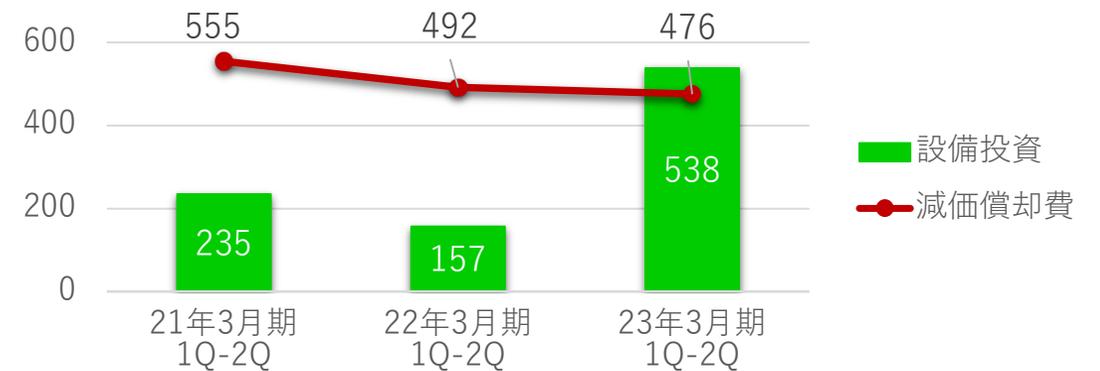
## キャッシュ・フロー

(単位: 百万円)

	22年3月期 1Q-2Q	23年3月期 1Q-2Q	前年同期 増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	1,379	△681	△2,061
投資活動による キャッシュ・フロー	50	△1,597	△1,647
財務活動による キャッシュ・フロー	△795	△1,107	△311
現金及び現金同等物の 増減額 (△減少)	797	△2,726	△3,523
現金及び現金同等物の 四半期末残高	5,818	5,028	△789

(単位: 百万円)

## 設備投資、減価償却費



(単位: 百万円) 研究開発費、売上高研究開発費比率 (単位: %)



# 貸借対照表、配当の状況

流動資産増加の主な要因：受取手形、売掛金及び契約資産16億8千1百万円の増加

固定資産増加の主な要因：建物及び構築物1億3百万円の増加、機械装置及び運搬具9千9百万円の増加

純資産増加の主な要因：利益剰余金7億3千6百万円の増加、為替換算調整勘定7億3千万円の増加

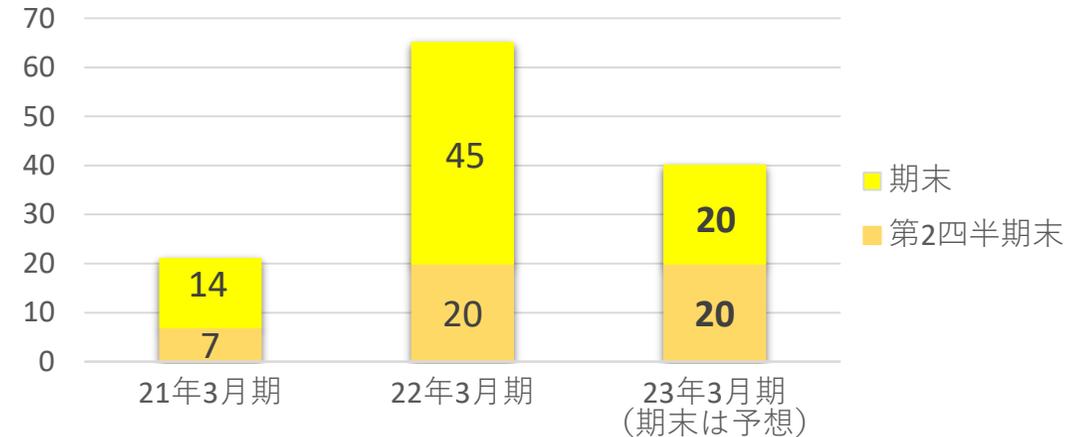
## 貸借対照表

(単位：百万円)

	22年3月期末	23年3月期 2Q末	前期末 増減額
流動資産合計	30,058	30,411	352
固定資産合計	16,065	16,371	305
資産合計	46,123	46,782	658
流動負債合計	11,263	11,132	△131
固定負債合計	8,460	8,179	△281
負債合計	19,724	19,311	△412
純資産合計	26,399	27,470	1,070
負債純資産合計	46,123	46,782	658
自己資本比率	51.7%	53.6%	1.9%

## 配当の状況

(単位：円)



23年3月期の配当の状況については、業績見通し・外部環境の変化などを総合的に勘案し、1株当たり年間40円を予定。

(第2四半期末の配当については、2022年11月10日開催の取締役会にて1株20円で決議 期末の配当金については、1株20円を予定)

〈自己株式の取得〉 2022年5月11日決議 (上限) 300,000株 400百万円  
取得期間 2022年5月12日~2023年3月31日  
2022年9月末時点 238,000株 312百万円  
2022年11月8日取得終了 300,000株 391百万円

# 3. 事業の成長エンジン 挑戦の進捗

# エレクトロニクス事業

## 上期業績トピックス

- ◎ 2022年度は、半導体の需要増から半導体製造装置向け電源の受注増加など一部の業界向けでは追い風
- ◎ 電子部品、半導体の調達難により生産・販売の遅れ

## 下期業績へのステップ

### 継続して市場優位性のある高圧電源技術に注力

- ◎ 医療診断装置向け電源の新製品開発加速
- ◎ 半導体製造装置用電源などの拡販活動の推進

### ● EV連携、スマエネ市場

今後市場拡大が見込まれるEV関連、スマエネ市場へ事業拡大をめざします

## BCP・災害時対応市場

### ② EV放電器

**新製品** POEC

- ・各通信機器や社会インフラ設備などへEVから電力供給
- ・災害避難場所などへの電力供給
- ・CHAdemo 認証取得  
直流出力V2L\*として業界初

特許6831034  
電力供給システム



CHAdemo

## EV連携・スマエネ市場

### DCリンク市場

#### ① 双方向DC-DCコンバータ

IBC5000

上市販売中



特許5552149  
双方向コンバータ  
他9件

- ・システムメーカーへの販売を推進
- ・DCからACに変換することなく、効率よくシステム構築が可能

### EV充電器市場

#### ③ EV充放電器 (電欠等の緊急対応)

**新製品** POCHA V2V

特許出願中



- ・V2V\*による緊急対応の可搬型EV充放電器

\* V2V (Vehicle to Vehicle) : 電気自動車間の充電

\* V2L (Vehicle to Load) : 電気自動車に蓄えられた電力を家庭や工場の電源として有効活用するシステム

BCP対応製品

② EV放電器 POEC

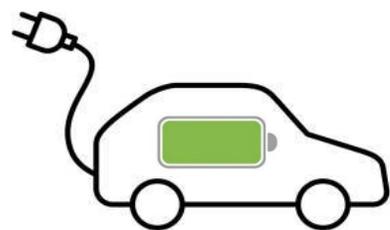
# 電気自動車から災害時の電力供給

災害などで大規模停電が発生した時に、電気自動車で駆け付け、車両内蓄電池から通信基地局やバックアップシステム内の48Vバッテリーへ電力を供給し、システムを長時間救済します

新製品



## POEC-V2L



150V~450V

可搬型放電器「POEC」



51.3V~56V  
2kW



絶縁

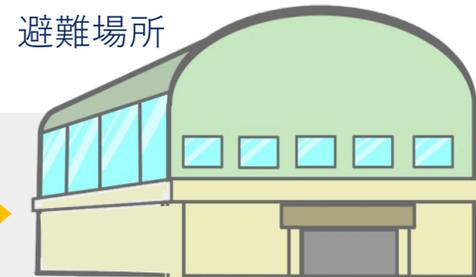


CHAdemo 認証取得  
直流出力V2Lとして業界初



UPS

AC100V



避難場所



インバータ

1φ AC200V  
3φ AC200V



基地局

バックアップシステム



信号機

交通表示装置



V2V市場新規開発製品

③ EV充放電器 POCHA V2V

電気自動車から電気自動車へ

新製品



可搬型充放電器  
「POCHA」



サポートカーがガソリン車の場合



# ケミトロニクス事業

## 一般意匠塗料から機能・環境塗料へ



執行役員  
ケミトロニクス事業部長  
飯塚 和良  
10月1日 事業部長就任

1. 色で差別化

意匠性塗料

2. BTXフリー※

揮発性有機化合物低減

1. CASE対応

機能性塗料

2. 環境対応

カーボンニュートラル貢献

今後予想される塗料の変化に向けて、日々製品開発を進めています

※BTXフリー：ベンゼン、トルエン、キシレンを代表とする特定有機溶剤を使用していない塗料



環境負荷低減塗料はカーボンニュートラルに貢献します  
カーボンニュートラルへの取り組み



### 環境負荷低減塗料

#### ① 速硬化塗料 エコネットNS-2EC

乾燥時間  
1 / 3

低温可能  
70℃

生産量  
アップ

不良率  
低減

#### ② 高塗着効率塗料 プラネットHI-C

高塗着  
効率

塗料使用  
量削減

生産量  
アップ

#### ③ 非石油由来材料使用塗料 開発中

再生可能  
資源

社会貢献

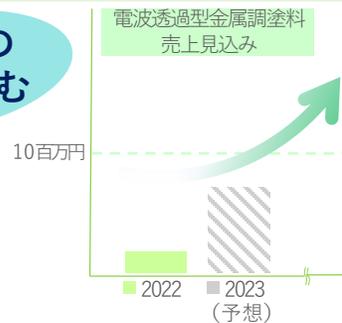
# 機能性塗料

2023年3月期実績



## ① 電波透過型金属調塗料

前年比4倍の売上を見込む



電波透過型金属調塗料  
売上見込み

ナビパネル



エンブレム



車輻部品

その他ターゲット

電波透過だけでなくめっき代替にも

カスタム外装部品



レジャー



## ② 放熱塗料

前年売上を上回る勢い

デジタルカメラ



車輻部品

密閉や小型化への熱対策に！！

インフラ設備



医療機器



## ③ 抗菌・抗ウイルス塗料

大好評（前年比大幅な売上増）

ドアノブ



シェアの時代からこそそのアイテムに

公共衛生施設



娯楽施設



# メカトロニクス事業

## ① OLB(光学レンズ貼合装置):Optical Lens Bonder

スマホの次のデバイスとして期待されるAR・VR、昨今のメタバースへの期待値も高まりを見せ、急速に市場拡大していくことが予測されています

早い段階でのキャッチアップと製品投入が重要と捉えており、当社の光学レンズ貼合装置(OLB)は、様々なレンズサイズや形状に対する最適な貼合プロセスのご提案と、塗布-貼合時のボイド(気泡)を抑制する当社独自システムにより、高品質な貼合を実現します



幅広い分野での利用と成長が予測されています！



エンターテインメント等



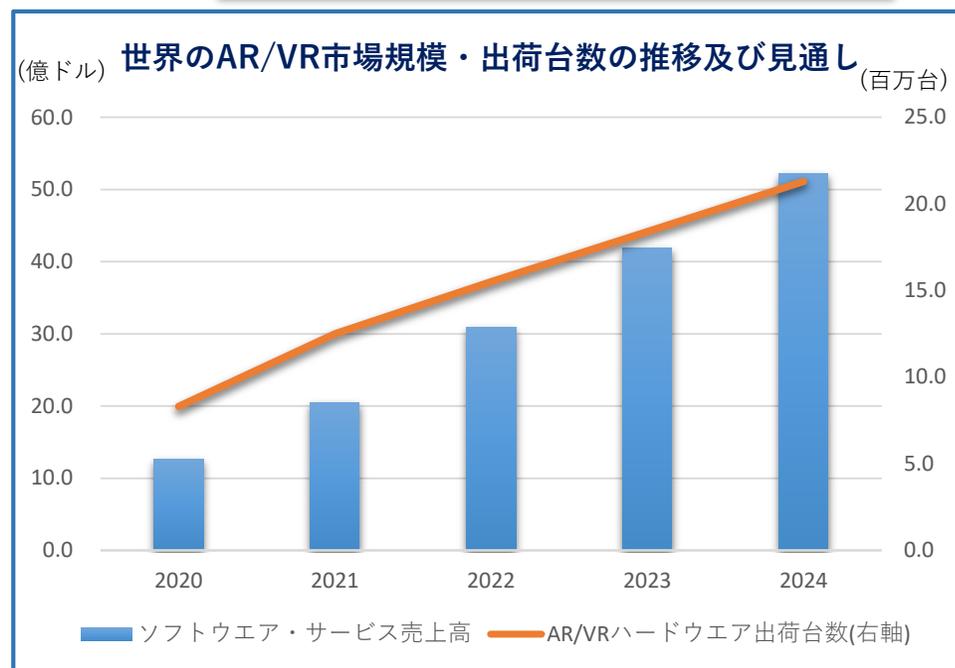
産業設備等の研修



教育(医療等)の研修



量産化市場展開へ向けた製品開発継続中！



出典：Omdia

※今上期は順調に推移、下期は若干含みを予想

## ② DB(車載-産業用ディスプレイ貼合装置):Display Bonder

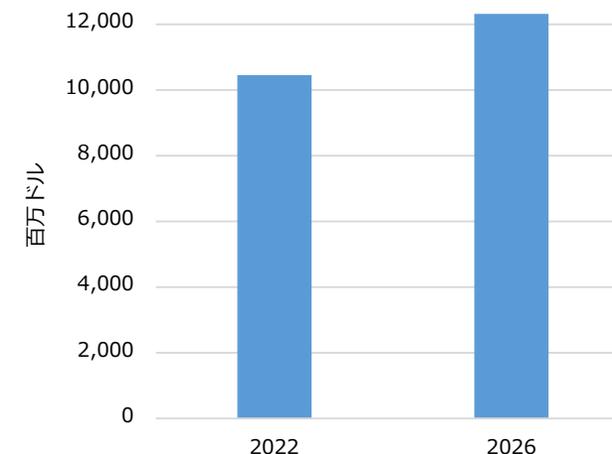
未来の車のカタチとしてEV(電気自動車)化と自動運転技術の急激な進展が見られる自動車業界において、利便性や快適さを実現すべく搭載されるディスプレイも「大型化」や「曲面化」等が進んでいます

当社のディスプレイ貼合装置(DB)は様々なディスプレイサイズや形状に対する最適な塗布、および高精度位置合わせにより、高品質な貼合を実現します



NRシリーズ

車載ディスプレイパネルの世界市場



富士経済  
「2022 タッチパネル/フレキシブル  
&車載ディスプレイと構成部材市場の将来展望」



自動車開発の最前線である欧州市場での実績拡大中！

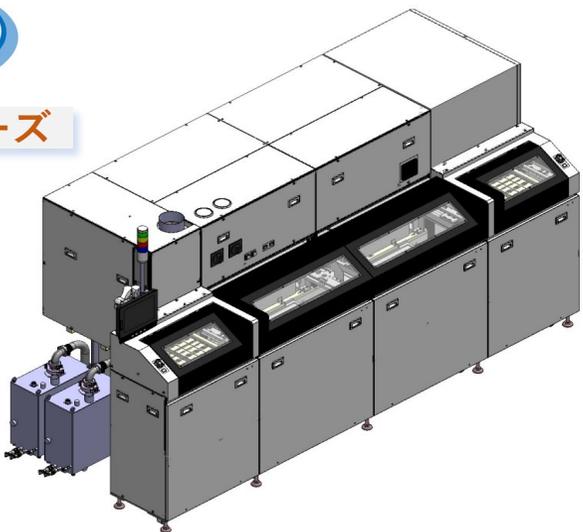
# ③ VSM(ギ酸還元リフロー):Vacuum Soldering System

近年、省エネ化・脱炭素社会に対する意識の高まりから、高効率なパワー半導体の需要が拡大し、はんだ接合の品質向上が求められています

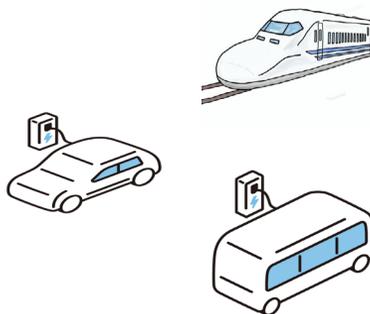
当社のギ酸還元リフロー(VSM)はギ酸還元による効率的な酸化膜の除去と、最適な加熱システムにより溶融時のボイド(気泡)を抑制し、高品質なはんだ接合を実現します

**新製品**

MPXシリーズ



- 主な用途例
- ・パワー半導体
  - ・LED
  - ・ウエハバンプ



新製品MPX投入 = 中国市場への参入に挑戦！



**ギ酸の直接気化**

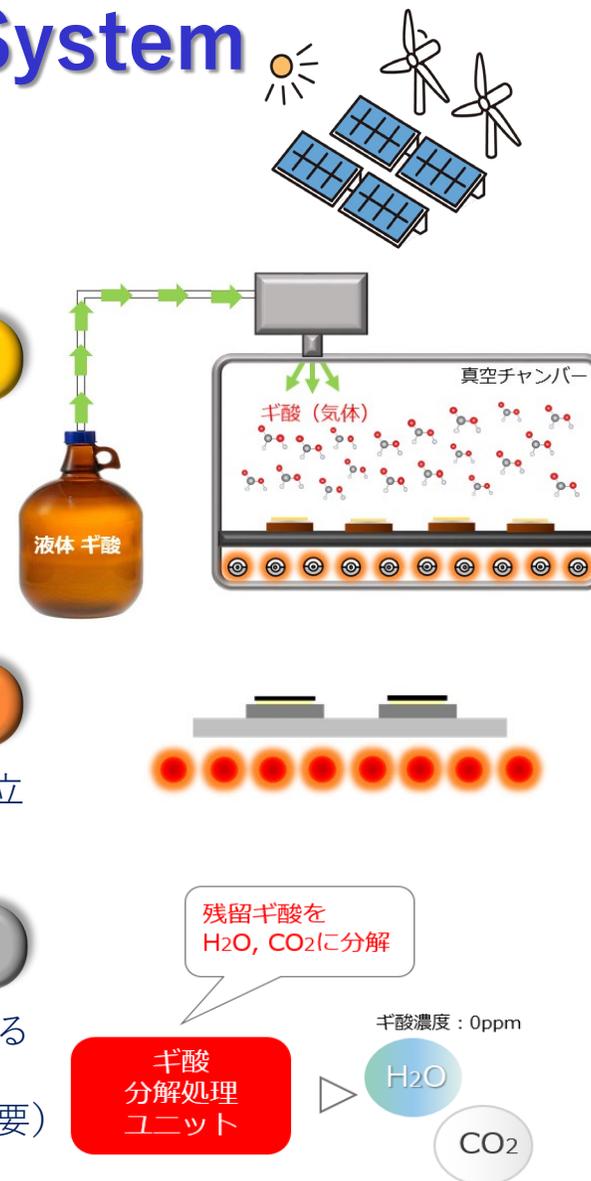
高い還元効率を確保

**輻射熱による加熱**

高速昇温と均熱性を両立

**ギ酸の完全無害化**

還元後の排気に含まれるギ酸ガスを完全無害化  
(専用排気設備不要)



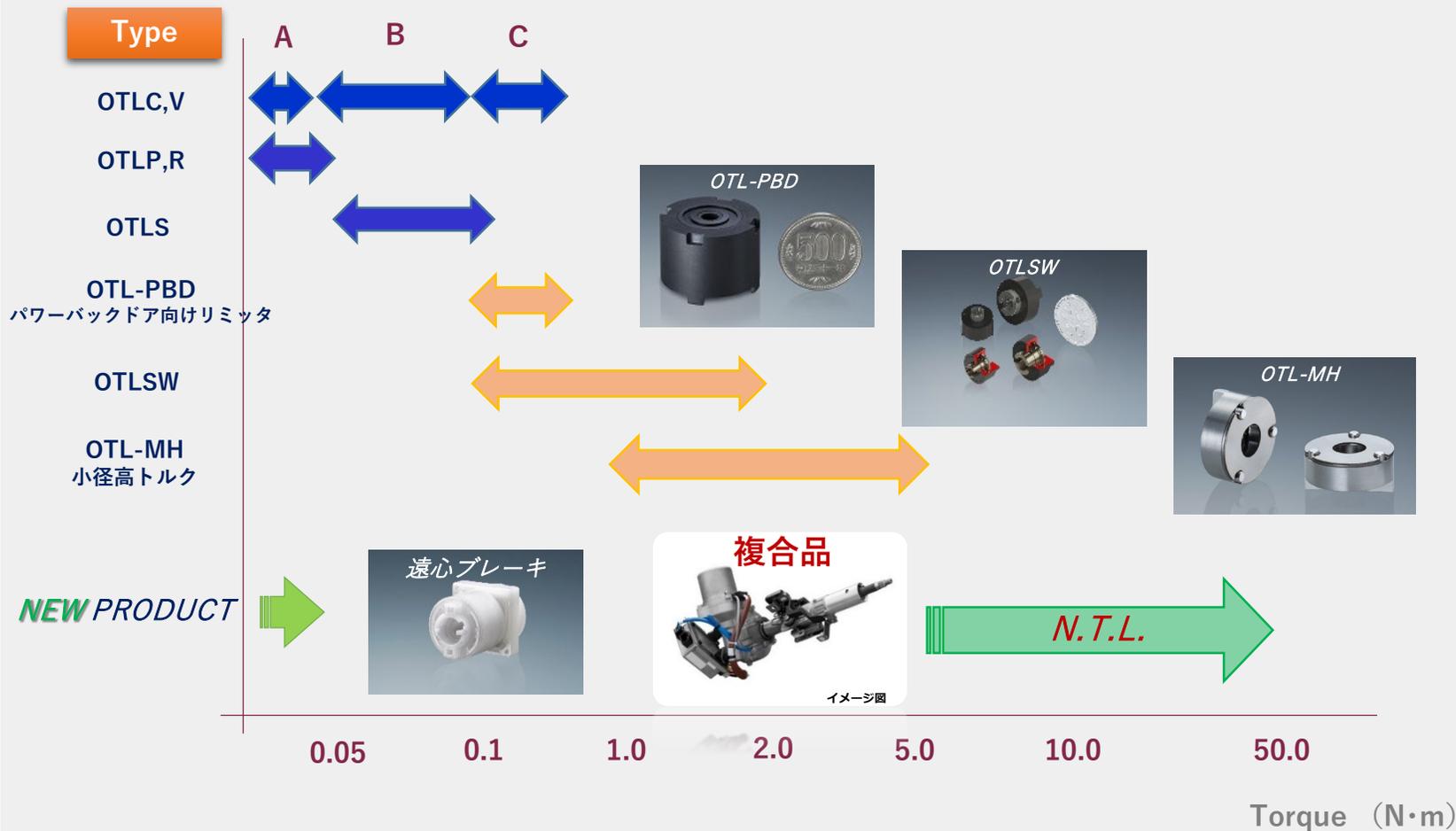
# コンポーネント事業

## ●トルクリミッタ：Torque Limiter

長年培った摩擦制御技術（コア技術）で新たな分野へ  
 ~ Next Torque Limiter ~

更に小型・高トルク化  
 ・複合化への挑戦

製品ラインナップの拡充により  
 更なる用途拡大へ



従来分野



成長分野



Near Future



# トルクリミッタ：Torque Limiter

社会のニーズと共に進化し続ける  
ORIGIN *Torque Limiter*

更に  
JUMP

EV化、自動化の波に乗り自動車分野で当社製品の需要拡大  
自動車分野（＝新たな分野）への挑戦！



電動ユニットを安心・安全に駆動するために *Torque Limiter*



- ◇ 当資料は株式会社オリジンが作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。  
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- ◇ 当資料に掲載しております情報は、2023年3月期連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる保証を行うものではありません。
- ◇ 業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在していますので、実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。
- ◇ 当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。

プレス・アナリスト・機関投資家様 個別取材窓口

株式会社オリジン

経営企画本部 IR・サステナビリティ統括

ir@origin.jp

※ 本資料についてのご質問は、上記メールアドレスより承ります

※ 以下の期間中にお受けしたご質問は、翌週の11月28日（月）にご回答申し上げます

※ ご質問受付時間：11月25日（金）14:00～17:00

※ 上記の期間を過ぎてからのご質問等にはお答えできない場合もございますので、あらかじめご了承ください